

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 13 章 53 節～58 節>

①イエス様の故郷の人々に見る、私たち自身の中にもある罪

教会でも署名を集めた袴田巖さんのえん罪がやっと認められました。無実の人間を死に追い詰めた「先入観」「決めつけ」。それはまさにイエス様にも当てはまるものであると同時に、私たちも持つ人間の一面であることを思わなければなりません。受難節の中にあるこの時、私たちの中にある色んな罪がイエス様を死に追いやったのだということを、この場面を通して覚え直しておきたいものです。

②信仰は奇跡を生む → 信仰はすべてを変え得る！

「人々が不信仰だったので、そこではあまり奇跡をなさらなかった」(58)とあります。これを読んで、「なんだ、イエス様はどこでも奇跡を起こせるわけではないんだ。イエス様の力が及ばず、退散されるしかない領域があるんだ」と考えるとしたら、それはここで考えるべきことからずれています。「不信仰は奇跡を生まない」、これは 58 節から考えていいことでしょうか。とすると、その逆は、「信仰は奇跡を生む」です。ここで大事なことはこれを、「自分の願っていることが成就する」と考えるのではなく、「信仰は全てを変え得る」と考えられるかどうかです。事故で首から下が動かなくなる「災い」に遭う中でキリスト者になった星野富弘さんの詩に、「いのちが一番大切だと思っていたころ 生きるのが苦しかった いのちより大切なものがあると知った日 生きているのが嬉しかった」というのがあります。どう変えようもない状況に置かれた中で、自分の色んな罪の赦しのために十字架にかかって下さったイエス・キリストと出会い、そのイエス様によって御自身を示して下さった神様を知り、まさに「信仰は全てを変え得る」ことを知った人の言葉です！

「このように、人々はイエスにつまずいた」(57)ともあります。人々の一番大きな損失は、自分の知識や経験に基づく先入観や決めつけが「この世界や私たちを創造された神様」に対して用いられ、その結果、神様からの破格の恵みを逃してしまったということです。人の意見に簡単に動かされず、自分で考えることは悪くない。しかし、神様の業については、それを明け渡した時に見えて来るものがあるのです！